

(別紙様式3)

### 令和5年度あいちラーニング推進事業研究報告書

学校番号 21

学校名 愛知県立名古屋工科高等学校

校長氏名 水井 久

|           |   |                  |
|-----------|---|------------------|
| 研究責任者職・氏名 | 教諭 ・ 坂本 健人  |                  |
| 研究テーマ     | スクール・ポリシーの見直しを通じて実現する主体的・対話的で深い学び   |                  |
| 本年度の研究目標  | (1) 本校の課題である組織的な教育活動の実現に向け、スクール・ポリシーの改定を行う。その過程を通じて教員間の同僚性を高めるとともに、「育てたい生徒像」を明確化することで、教員一丸となった組織的教育の実現を目指す。<br>(2) 改定されたグラデュエーション・ポリシーに基づいた授業プランを計画・実践して知見・反省を共有し、学校全体として共通の目線に立った、コンピテンシー・ベースの教育の実現を目指す。 |                  |
| 研究の実施内容   |   |                  |
| 実施月日      | 内 容   | 備 考<br>(対象生徒等)   |
| 4月28日     | 校内研究推進委員会コアチームによる研究計画の改定  |                  |
| 5月11日     | 職員会議にて校内研究推進委員会の設置を報告   |                  |
| 5月15日     | 「ワールドカフェ in 名古屋工科」vol.1 の開催   | 職員有志             |
| 5月30日     | 校内ロイロノート研修会   | 職員希望者            |
| 6月1日      | 「ワールドカフェ in 名古屋工科」vol.2 〈現職研修〉 の開催  | 全職員              |
| 6月29日     | 「ワールドカフェ in 名古屋工科」vol.3 の開催   | 職員有志             |
| 7月10日     | 第1回校内研究推進委員会  |                  |
| 7月20日     | 「ワールドカフェ in 名古屋工科」vol.4 の開催   | 職員有志             |
| 7月24日     | 第2回校内研究推進委員会<br>※グラデュエーション・ポリシー(案)の決定   |                  |
| 7月25日     | 第1回連絡協議会(名古屋地区)参加・研究計画書提出   |                  |
| 9月1日～     | 各教科・学科によるグラデュエーション・ポリシーに基づく授業実践を随時実施  | 全職員              |
| 10月10日    | 「ワールドカフェ in 名古屋工科」vol.5 の開催   | 職員有志             |
| 11月16日    | 公開授業及び研究協議会の開催〈化学基礎・機械設計〉   | 1年5組生徒<br>2年1組生徒 |
| 11月17日    | 主管校(天白高校)による公開授業及び研究協議会参加   |                  |

|        |                                      |                     |
|--------|--------------------------------------|---------------------|
| 11月29日 | 校内 Microsoft Teams 研修会               | 職員有志<br>職員有志<br>全職員 |
| 11月30日 | 「ワールドカフェ in 名古屋工科」vol.6 の開催          |                     |
| 12月18日 | 「ワールドカフェ in 名古屋工科」vol.7 〈現職研修〉 の開催   |                     |
| 1月15日  | 第3回校内研究推進委員会<br>※3つのスクール・ポリシー改定原案の決定 |                     |
| 1月25日  | 第2回連絡協議会(名古屋地区)参加                    |                     |
| 2月27日  | コアチームによる振り返り・次年度計画の検討                |                     |
| 3月上旬   | 研究報告書の作成・主管校へ提出・本校HPへ掲載              |                     |

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

1 スクール・ポリシーの改定

令和3年3月に学校教育法施行規則等が一部改正されたことを受け、「高等学校教育の入口から出口までの教育活動を一貫した体系的なものへと再構成する」ことを目的に、全ての高等学校にスクール・ポリシーの策定、公表が義務づけられている。策定にあたっては「生徒や入学希望者の学習意欲を喚起し、学校生活や将来に対する展望を持ちやすい表現・内容」にすること、「日常的に参照可能なよう、総花的なものとならず真に重点的に取り組む内容を示す指針」にすることが文部科学省より示されていたが、こうした理念に必ずしも合致しないスクール・ポリシーが全体として多く見受けられる。本校の従来のスクール・ポリシーも同様であり、総花的に過ぎ、本校生徒や中学生、保護者、教職員が理解し、意識的、重点的に取り組める指針とはなっていなかった。

本年度の取り組みでは3つのスクール・ポリシーの改定を行い、これを軸に、本校の課題である組織的な教育活動の実現に向けた環境の整備を行った。4月に運営委員(管理職、各学年・分掌主任)を中心に校内研究推進委員会を組織し、その下部組織としてポリシー改訂に向けたコア・チームを設置した。具体的な活動としては、新たなポリシーの方向性をテーマに7回のワールドカフェを行い、内2回は現職研修として全職員の参加のもと、方向性の確認と育成したい生徒像の目線あわせを行った。検討

順はグラデュエーション、アドミッ  
ション、カリキュラムの順で行い、  
2学期以降は決定したグラデュエ  
ーション・ポリシーに基づく授業実践  
を、各教科・学科で並行して実施し  
た。これら一年を通じた取り組みの  
過程で、教員間の同僚性を高めると  
ともに「育てたい生徒像」を明確化  
し、一丸となった組織的教育の実現  
を目指した。

令和5年度 スクール・ポリシー策定までの日程(予定)

| 日 程       | 会議orワールドカフェ(WC)       | 内 容   |
|-----------|-----------------------|---|
| 4月28日(金)  | 第1回 校内研究推進委員会・コアチームM  | 年間活動予定の確認   |
| 5月15日(月)  | 「ワールドカフェin名古屋工科」vol.1 | テーマ「私たちは、何ができる(どんな)からを身につけた)生徒を育てたいのか」<br>～コンピテンシーベースの教育へ～①                 |
| 5月17日(水)  | 第2回 コアチーム・ミーティング      | WCvol.1のまとめ(キーワード、要素整理)&WCvol.2の方針協議  |
| 6月1日(木)   | 「ワールドカフェin名古屋工科」vol.2 | テーマ「私たちは、何ができる(どんな)からを身につけた)生徒を育てたいのか」<br>～コンピテンシーベースの教育へ～②                 |
| 6月13日(火)  | 第3回 コアチーム・ミーティング      | WCvol.2のまとめ(キーワード、要素整理)&WCvol.3の方針協議  |
| 6月29日(木)  | 「ワールドカフェin名古屋工科」vol.3 | テーマ「輸出されたキーワード、要素の絞り込みと順位付け」  |
| 7月10日(月)  | 第1回 校内研究推進委員会         | WCvol.3のまとめと第1回校内研究推進委員会に向けた準備&WCvol.4の方針協議<br>グラデュエーション・ポリシーの原案を複数作成       |
| 7月20日(木)  | 「ワールドカフェin名古屋工科」vol.4 | テーマ「グラデュエーション・ポリシーの複数原案の検討、 自由社会科教室<br>第5回 コアチーム・ミーティング                     |
| 7月25日(日)  | 第2回 校内研究推進委員会         | WCvol.4の意見整理と校内研究推進委員会に提示するグラデュエーション・ポリシー原案(順位<br>付けされた複数案も可)の作成            |
| 7月25日(日)  | 第2回 校内研究推進委員会         | 運営委員会(9/4)に提出するグラデュエーション・ポリシー案の決定   |
| 10月3日(火)  | 第4回 コアチーム・ミーティング      | 各教科・学科に「グラデュエーション・ポリシーに基づいた授業プラン」の計画・実践を依頼<br>カリキュラム・アドミッション両ポリシーの原案作成に向け協議 |
| 10月10日(火) | 「ワールドカフェin名古屋工科」vol.5 | テーマ「グラデュエーション・ポリシーの実現に向け、どんな生徒を受け入れたいか」                                     |
| 11月30日(木) | 第7回 コアチーム・ミーティング      | WCvol.5のまとめ(キーワード、要素整理)&WCvol.6の方針協議  |
| 11月30日(木) | 「ワールドカフェin名古屋工科」vol.6 | テーマ「グラデュエーション・ポリシーの実現に向け、学校が出来ることは、   |
| 12月18日(月) | 第8回 コアチーム・ミーティング      | WCvol.6のまとめ(キーワード、要素整理)&カリキュラム・アドミッション両ポリシーの原案を<br>複数作成                     |
| 12月18日(月) | 「ワールドカフェin名古屋工科」vol.7 | テーマ「わたしたちのスクール・ポリシー」  |
| 1月12日(金)  | 第9回 コアチーム・ミーティング      | WCvol.7の意見整理と校内研究推進委員会に提示するカリキュラム・アドミッション両ポリ<br>シー原案の作成                     |
| 1月15日(月)  | 第3回 校内研究推進委員会         | 3つのスクール・ポリシー原案の決定   |
| 3月19日(日)  | 第11回 コアチーム・ミーティング     | 今年度の振り返り・次年度計画の検討   |

2 ワールドカフェの実施

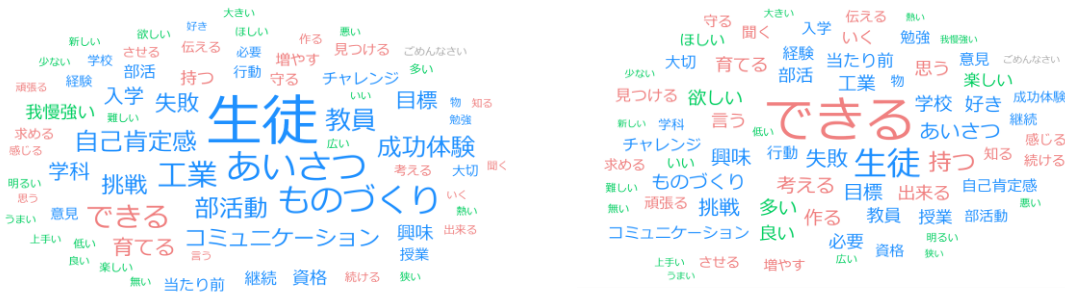
ワールドカフェは年度内に7回を計画、実施した。3つのポリシーの軸となるグラデュエ  
ーション・ポリシーを先行して検討することとし、夏季休業までの vol.1～4 をそれに充てた。な  
おグラデュエーション・ポリシーについては、昨年度に試行で実施した2回のワールドカフェに

おいてすでに検討がスタートしており、今年度はそれを引き継いでの検討となっている。残る二つのポリシーは夏期休業開けに検討を行い、最後の vol.7 で3つのポリシー全ての原案を並べ、最終調整を行った。なお、ワールドカフェは原則有志参加で行ったが、前述の通り vol.2 及び vol.7 の2回については現職研修とし、職員全員参加のもとで実施した。

ワールドカフェは通常の会議とは異なり、特定の結論を得ることを目的とせず、「カフェのようになりリラックスした雰囲気のもとで、テーマについて自由に対話を行う。この形式を用いたのは、各教員が日常の教育活動の中で感じていること、抱えている問題意識、生徒観や学校観、それらを自由に語り合える場でこそ、本校が掲げるべきスクール・ポリシーのイメージが見いだせると考えたからである。



ワールドカフェの中で示されたアイデアや意見は職員会議でも共有し、資料には代表的な意見を列挙するとともに、テキストマイニングを行い頻出ワードを可視化した。



この他、頻出ワードについては一覧化してワールドカフェの資料として提示し、より重視すべき要素を絞り込んでいくかたちでポリシーの原案を作成していった。

グラデュエーション・ポリシーは vol.3 の対話を経てコア・チームが文章化し、vol.4 の対話を通じた修正を経て7月25日に

|      |        |               |
|------|--------|---------------|
| 素直   | 失敗     | 大切            |
| あいさつ | 行動     | 自己肯定感         |
| 視野   | 興味     | 挑戦・チャレンジ      |
| 部活動  | 経験     | 資格            |
| 工業   | 意見     | 成功体験          |
| 教員   | ものづくり  | コミュニケーション[能力] |
| 必要   | 当たり前   | コントロール        |
| 頑張り  | 勉強     | 社会            |
| 目標   | 将来     | 好き            |
| 授業   | 忍耐力・我慢 |               |
| 提出   | 継続     |               |

名古屋工科高校 3つのポリシー こんな生徒を育てます!! **グラデュエーション・ポリシー**

**1 好きを削れる!**  
\* 向にでも挑戦する \*

- 「好き」をみつけ、のめりこめる人。
- 工業に対する興味を基に、何事にも挑戦していきける人。
- 「まずやってみる」行動力のある人。

Try & Error  
Challenge Start!

**2 失敗に負けない!**  
\* 挑戦しつづける \*

- 失敗を前向きに捉え、新たな知識・技術にたどり着ける人。
- 壁にぶつかっても、自分で乗り越えようとする人。
- 「今」をあきらめない人。

Never Give Up!

**3 共に輝く!!**  
\* 誰かに協力できる・協力を広げられる \*

- 誰かの失敗を認め、応援できる人。
- 挑戦の輪を広げ、応援してもらえる人。
- 「チームプレイ」を大切にできる人。

Team play  
Next Challenge!  
Level up!

校内研究推進委員会により承認された。昨年度の2回の試行と合わせ、6回のワールドカフェを通じて様々な意見、アイデアが集められた。ここに、すべての対話を通じて最も使用頻度の高かった「挑戦・チャレンジ」をキーワードとし、本校の新しいグラデュエーション・ポリシーが決定された。

2学期には残る2つのポリシーの検討を行ったが、両者ともグラデュエーション・ポリシーを踏まえて考えるものであるため、検討もス

みんなを求めます!!

**アドミッション・ポリシー**

**1 何かに挑戦したい人**

- ものづくりに挑戦したい人。
- 資格取得に挑戦したい人。
- 部活動に挑戦したい人。

**2 何かに熱中したい人**

- ものづくりに熱中したい人。
- 資格取得に熱中したい人。
- 部活動に熱中したい人。

**3 共に輝く仲間を見つけたい人**

- 同じ目標に向かって取り組みたい人。
- 同じ経験を仲間と共有したい人。
- 誰かよ何かを返してあげたい人。

こうやって得ます!!

**カリキュラム・ポリシー**

**1 興味を惹く、教育の実現**

- 普通科目を通じて、教養を身につける。
- 工業科目を通じて、ものづくりに触れる。
- すべての学校生活を通じて、「好き」を見つけさせる。

**2 挑戦できる環境作り**

- 失敗できる環境。
- 失敗の原因を深究できる環境。
- 成功に向けた再挑戦ができる環境。

**3 協調性を育む**

- 「モラル」「マナー」
- チームの一員として、自分の意見をもち、相手の意見を聞く。
- 「チームプレイ」を意識する。

3 グラデュエーション・ポリシーに基づいた授業プラン  
2学期以降、各教科・学科において、改定されたグラデュエーション・ポリシーに基づく授業プランを立て、公開授業を実施した。

公開授業実施にあたっては、「学習評価プラン」を作成した。これは以下三点、すなわち①授業者と生徒が「育てたい(伸ばしたい)ちから」を共有することで教育効果を高める、②評価規準を明確化することで生徒個々に自身の学習課題を認識させる、③グラデュエーション・ポリシーが見える化することで、教員間、生徒間、あるいはその両者の間で本校の目指す教育方針を共有する、ことに主眼を置き体裁を整えた。

本年度に策定した3つのポリシーが実際に適用されるのは、来年度からとなる。授業プランの作成はそれに向けた先行実施の形をとるため、公開授業を実施しながら、運用上の課題や改善点を見つけていった。

#### 4 研究の評価と課題

令和6年4月に、本校のスクール・ポリシーは改定される。新たなポリシーは、本校におけるすべての教育活動の指針となる。本年度の取り組みについてはおおむね予定通りに進行し、新たなポリシーという成果も得た。しかし真の評価規準は、来年度、ポリシーを踏まえた教育活動がどれだけ広がるか、深まるかにある。

あいちラーニングの研究指定は本年度で終了する予定だが、スクール・ポリシーは実質的にここからがスタートである。今後の課題は、具体的な教育活動に3つのポリシーをどう落とし込むかを検討し、それらを客観評価する仕組みを構築することである。そもそも3つのポリシーは絶えず振り返り、教育活動の評価や生徒の状況を踏まえ、必要に応じて見直しを行っていく性質のものである。今後もポリシーの運用と評価のあり方について検討を続け、組織的な教育活動の実現に向けた環境の整備を進めていきたい。

ムーズに進んだ。12月18日には3つのポリシー原案を並べたかたちでワールドカフェ vol.7 (現職研修)を実施し、全教員が参加して最終検討を行った。1月15日に校内研究推進委員会により承認された最終案が、左のものとなる。

科目 < > 第 学年 学習評価プラン

※単元 \_\_\_\_\_ 実施日 \_\_\_\_\_

1 この授業(単元)で育てたい「ちから」 ※この授業(単元)で育てたい「ちから」の「/」に○を

**高専科 グラデュエーション・ポリシー**

1 好きを創れる 何にでも挑戦(チャレンジ)する～

- ✓「好き」をみつけ、のめりこめる人。 ✓工業に対する興味を基に、何事にも挑戦していける人。
- ✓「まよやってみる」行動力のある人。

2 失敗を前向きに捉え、新たな知識・技術にたどり着ける～

- ✓失敗を前向きに捉え、新たな知識・技術にたどり着ける人。
- ✓壁にぶつかっても、自分で乗り越えようとする人。 ✓「今」をあきらめない人。

3 共に輝く 一挑戦に協力できる・挑戦を応援できる～

- ✓誰かの失敗を認め、応援できる人。 ✓挑戦の輪を広げ、応援してもらえる人。
- ✓「チームプレイ」を大切にできる人。

2 評価の具体的な場面 一生徒のどんな活動で?～ 成果物 (詳細書き)

3 評価規準と評価の判断基準

| 評価規準         | 評価 |
|--------------|----|
| Bと判断する具体的な状況 |    |
| Aと判断する具体的な状況 |    |
| Cへのよるべき実態    |    |

4 授業の見どころ!

きりとり

授業者に対するご感想、ご意見、アドバイスを書いてください。何を聞いても良いです。紙が少なくなると、「家と意見を伝える精神」をお返さない。

お名前

▲授業者・見学者共有用

生徒配布・掲示用

科目 < > 第 学年 学習評価プラン

※単元 \_\_\_\_\_

1 この授業(単元)で伸ばしたい「ちから」

**高専科 グラデュエーション・ポリシー**

1 好きを創れる 何にでも挑戦(チャレンジ)する～

- ✓「好き」をみつけ、のめりこめる人。 ✓工業に対する興味を基に、何事にも挑戦していける人。
- ✓「まよやってみる」行動力のある人。

2 失敗を前向きに捉え、新たな知識・技術にたどり着ける～

- ✓失敗を前向きに捉え、新たな知識・技術にたどり着ける人。
- ✓壁にぶつかっても、自分で乗り越えようとする人。 ✓「今」をあきらめない人。

3 共に輝く 一挑戦に協力できる・挑戦を応援できる～

- ✓誰かの失敗を認め、応援できる人。 ✓挑戦の輪を広げ、応援してもらえる人。
- ✓「チームプレイ」を大切にできる人。

2 評価規準と評価の判断基準

| 評価規準         | 評価 |
|--------------|----|
| Aと判断する具体的な状況 |    |
| Bと判断する具体的な状況 |    |
| Cと判断する具体的な状況 |    |